

# 転機

## Turning Point

石丸園子 Sonoko ISHIMARU

私は、男女雇用機会均等法の一期生です。「ずっと会社勤めをする気もないし、いつ会社を辞めてもいい」という考えで仕事をしておりましたが、なぜか気がつければ、同期入社的女性12人のうち、私一人が残っていました。

今では、管理職を務めていますが、仕事に対する意識・姿勢が管理職になったときにガラッと変わったような気がします。当時、自分のテーマを進めることに精一杯で、周りの人のテーマにまで関心をもってコメントをすることもなく、人の先頭に立って突き進むタイプでもありませんでした。そんな私でもさすがに管理職になったとき、背筋がピンとするような責任感・緊張感を感じたものです。管理職になり、一つのグループを任されたわけですので、これまでの自分の思考・言動ではいけないと思い、「小さなグループだけでも、なんとかグループの存在価値を主張し周囲にもっと認められるようになりたい。部下がどの部署に行っても、社外に出ても恥ずかしくないレベルに育成・指導していかなければならない。」と考えを改めたものです。

そうはいうものの、自分の性格・能力も嫌というほどわかっていましたので、「人を引っ張る力がないなら、みんなの意見に耳を傾け一緒に進もう。自分の能力が足りないなら周囲の人の力を借りよう。グループの存在価値をわかってもらうため、まずは自分が社内外で認められる研究者になろう。」という思いで、言動も改め、なんとかグループの運営をしてきました。反省を繰り返す日々でしたが、ある日、当時の上司から、「あなたを管理職に就けて正解だった」と言われたときには、胸を撫で下ろすようなほっとした気持ちになりました。仕事に限らず、人生には必ず転機があるので、転機を掴みその転機をプラス方向にもっていく力・思考があればなんとかなる、そんな気がします。

では、転機を掴みその転機をプラス方向にもってい

く力・思考はどうすれば身につくのでしょうか。いろんな答えがあるでしょうが、私の経験上、重要だと感じていることを以下に述べます。

①人の意見は素直に聞くこと。その上で、どのように行動するかは自分で決める。私は、伸びる人は、基本的に素直な人だと思います。俗に言う、イエスマンとは違いますよ。

②物事を進めるとき、自分のアピールポイント、ウィークポイントを理解した上で、アピールポイントで勝負すること。会社にはいろんな専門家がいるので、自分の強みをもっていると、弱み部分を補ってくれる人に不思議と出会えるものです。もちろん、まずは、自分の強みをもてるように努力することが必要ですが。

③ストレスは溜めないこと。人に迷惑をかけない程度の捌け口をもつことが必要だと思います。

以上のことは、男性・女性に関係ない話ですが、私は幸いなことに、会社生活で女性だから嫌な思いをした、差別を受けた、という感覚がありません。周囲に恵まれていたのかもしれませんが、今の世の中、差別的風潮はなくなっていますので、自分を磨く努力をすれば必ず道は開けると思います。ただ、一つ気をつけて欲しいことがあります。差別と区別とは違います。区別を差別だと思い込むようなことがないように、冷静・客観的に自分の置かれている状況を見極めることができるようになっていただきたい、とは思っています。

いろいろと偉そうなことを書きましたが、アラフォーからアラフィフに足を踏み入れた今、立ち止まって自分の人生を考えたいときもありますし、管理職としてこれでいいのか、と悩むときもあります。悩みながらも前を向いて進むしかないのは、若くても、そうでなくても一緒かと思えます。ただ、“悩む時間があれば、目の前にあるやるべきことをこなそう、そのうちに先が見えてくるさ”とも思っています。ともに頑張りましょう。



石丸園子 Sonoko ISHIMARU

東洋紡績(株) 総合研究所コーポレート研究所  
快適性工学センター 部長  
奈良女子大学家政学部卒業  
専門は快適性評価技術の開発および快適性に優れる製品設計

E-mail: sonoko\_ishimaru@toyobo.jp